

各位

会社名 函館どつく株式会社
 代表者 代表取締役社長 関川 義紀
 問合せ先 経営管理本部長 齋藤 洋一
 (TEL 0138-22-3111)

2023年3月期決算に関するお知らせ

1. 2023年3月期決算状況 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	20,771	19.5	576	—	748	—	741	—
2022年3月期	17,374	△ 7.6	△ 1,053	—	△ 1,085	—	△ 1,102	—

(2) 事業部門別売上高

(%表示は対前期増減率)

	新造船部門		修繕船部門		橋梁陸機部門他		合計	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	13,311	21.3	6,923	17.0	536	9.1	20,771	19.5
2022年3月期	10,968	8.5	5,915	△ 26.7	491	△ 21.1	17,374	△ 7.6

2. 当期の概要

当会計年度の業績は、売上高20,771百万円（前年同期比19.5%増）、営業利益576百万円（前年同期1,053百万円の損失）、経常利益748百万円（前年同期1,083百万円の損失）、当期純利益741百万円（前年同期1,102百万円の損失）と大幅な増収と黒字転換を達成することが出来ました。

<新造船部門>

売上高は、操業量の増加と円安・ドル高の進行により前年同期比で21.3%増となりました。

損益面では、鋼材など資機材価格の高騰に苦しみましたが、全社一丸となって取り組んでいる原価削減活動の効果と円安の進行により、不況時に受注した低船価船の予想収益が大幅に改善される見込みとなって多額の工事損失引当金を取り崩すことが出来、黒字に転換することが出来ました。

<修繕船部門>

売上高は、主力の海上自衛隊艦艇に加えて海上保安庁巡視船、民間船各種（フェリー・貨物船・漁船・曳船）の修理工事にも積極的に取組んだことで前期比17.0%増となりなした。

損益面は、操業度の改善と工事の順調な進捗により、増益となりました。

<橋梁陸機部門>

積極的な営業活動により売上高は前期比9.1%増の536百万円となり、営業利益を確保いたしました。

資機材価格の高騰など不安材料はありますが新造船需要は着実に改善しており、このチャンスを生かして、全社を挙げ黒字化の継続及び安定収益体制の構築に取り組んでまいります。

3. 2024年3月期の業績予想

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
百万円 23,000	百万円 800	百万円 800	百万円 800

売上計上予定の対象となる未ヘッジ外貨は1米ドル当たり130円を前提としております

以上